

日本文化と禅

安楽の輪 …………… 堀井 妙泉

耕雲庵老師親交の碧雲居先生（二）

香木片々 …………… 河本 祖舟

禅茶録（その一）

…………… 寂庵 宗擇 著

片野 慈啓 訳



安楽の輪

堀井 妙泉

人生の後半に差し掛った頃、私はどのような年寄りになりたいかと真剣に考えていた。精神的に自立をし、好奇心旺盛で、月夜蟹のように何度も自分の殻を脱ぎ、自由で洒落な年寄りを描いていたようだ。

還暦を迎えた時、長い間所属していた短歌結社を退会し、女性だけの同人誌を発行することになった。今迄は結社の大きな柱に依存し、与えられた役割だけを忠実に果たすだけでよかったが、土台から掘り起こすような作業が待っていた。軌道に乗るまでは寝食を忘れる程の多忙と、難題の連続であったが、様々な難題のお陰で私は何度も脱皮させてもらった。

その底力となったのは一日一炷香の数息観の継続であり、一行三昧を楽しく行じられたことであった。身近な例では、料理する時は作る三昧、読書の時は読む三昧、編集する時には一心不乱にと、その事に没入出来る楽しさである。

この安楽の輪を一人でも多くの人に広める事を余生の生き甲斐としたい。

著者プロフィール



堀井妙泉（本名 / 美鶴）

昭和3年、函館市生まれ。歌人。新墾賞、北海道歌人会賞、北海道新聞短歌賞、日本歌人クラブ北海道ブロック賞受賞。平成2年より同人歌誌『英』編集発行人を務める。昭和44年、人間禅芳賀洞然老師に入門。現在、人間禅主幹布教師。庵号 / 蓮れんしやう昌庵。